

まち育宣言

学びと生態系を繋げる「ナレコモ」



対象地域は、学校、商業、住宅、神社、皇居と様々なものが混在する多様な地域である一方、それらが互いに干渉し合わず、孤立している余白のような地域であります。この余白に、ここに集まる学校を母体としたナレジコモンズを提案します。彼らは①新たな教育②ズートピア③モビリティの三つの柱をキーワードに、資源を繋げるまちづくりを行い、北の丸公園から飯田橋駅をつなぐ圏を産み出します。その中で、人が自然に触れ、学び、創り、住まい、働く、豊かな生活風景を生み出していきます。そして、教育と生態系のまちとして認識され、他地域の人を誘い込みます。

1. 敷地分析

1.1 広域的な位置付け

一地域内の雑多な個性をつなぐ余白へ転換する。
対象地域は、神楽坂・飯田橋・麹町・九段下・皇居といった個性豊かな地域に隣接しており、学校、商業、住宅、神社、皇居と様々なものが混在する非常に多様な地域です。また、靖国神社や武道館といった、シンボルとなりうる地域資源にも恵まれています。最寄りには飯田橋駅、九段下駅と他地域へのアクセス性は良く、少し離れた東京や新宿などのターミナル駅にもスムーズに移動できます。一方で、個性豊かな地域に隣接し、多様なものが集まっているものの、それらを取りまとめる要素に欠けているため、個性的な街並みとはいえず、そして個性が弱い故に、隣接する地域の通過点すなわち東京の余白として、位置付けられていると考えます。



1.2 性格の違う二つのエリア

一軸を取り戻すことで、エリアを融合する。
対象地域には大きく分けて、「富士見エリア」と「北の丸公園エリア」の二つのエリアによって構成されている。前者はたくさんの学校を中心に、住宅、商業、神社が混在するエリアです。多種多様な活動が行われるポテンシャルがある一方、憩いの場としての豊かさには欠ける特徴があります。後者は北の丸公園と内堀を中心としたエリアで多種多様な生物が生息し、憩いの場や豊富な観光資源に恵まれています。一方で二つのエリアをつなぐ要素に欠け、それぞれの場所が孤立しており、敷地には江戸時代から残り、早稲田通りから田安門、北の丸公園を通り2つのエリアをつなぐ都市軸が残りますが、靖国通りによって分断され、エリア間の人の行き来は少ない傾向にあります。

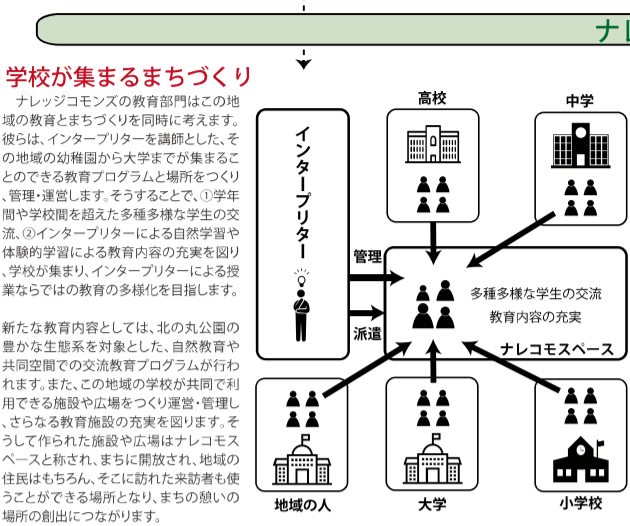


3. ナレジコモンズ

宣誓 1 学校所有の土地を集め、繋ぎ、新たな教育の場を創出します

宣誓 2 生態系を街に広げ、生態系に触れる機会を増やし、人と生物が共存する「ズートピア」を創出します

宣誓 3 歩行を中心にモビリティで補う移動空間をつくります

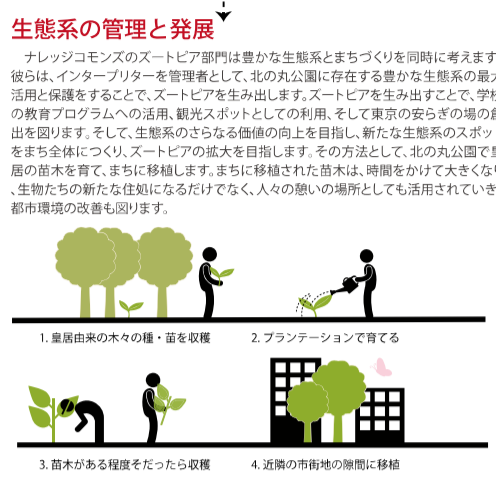


ナレジコモンズの仕組みと役割

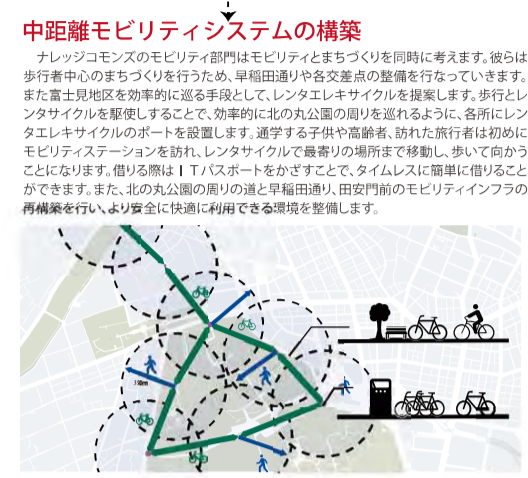
■組織の目的
ナレジコモンズとはこの地域の学校たちを母体とした、富士見地域の総合コーディネーターです。組織の核となるのは、インタープリターと学校、地域の教師や地域の住民が中心として、地域の学生たちはナレジコモンズの活動に参加、お手伝いをします。
教育、生態系、モビリティの3つの地域資源を活用した事業の推進、運営により、**人を育て、人が環境をつくり、人と多様な生態系が根付くことで、まちが育っていく**そんな「まち育」を実現する母体として機能します。



生態系の管理と発展



中距離モビリティシステムの構築

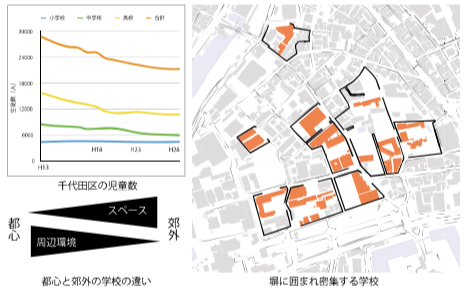


2. 計画の方針

2.1 学校が集まるまち

富士見地域の大きな特色として、学校が集まっていることが挙げられます。明治時代初期にこの地域に多くの学校が開校して以来、学校が集まるまちとして受け継がれています。現在も大学から幼稚園までの多種多様な学校が早稲田通り沿いに集まっており、たくさんの学生がこの富士見地域で生活しています。しかし、帰宅途中の学生が利用できる公園や自習室といった場所は少なく、富士見地域はあくまで通学路としての利用に踏みとどまっております。学生のまちとしての機能は不十分であると考えられます。

宣誓 1 学校所有の土地を集め、繋ぎ、新たな教育の場を創出します。



2.2 生態系の豊かさとしさ

江戸時代からの歴史的遺構に由来する、皇居、北の丸公園、内堀、外堀、それを囲む緑道は、千代田区においては東京においても、特に多種多様な生物（何種）が生育・生息する場として重要な存在です。一方で市街地部分には小規模な緑道や街路樹はありますが、多くは植生が単調でありごく僅かな、限られた種類の生き物しか生息していない状況となっています。またそれぞれの緑地は孤立しており、生き物が移動し都市全域に広がっていくような、生態系の繋がりが乏しい状態です。

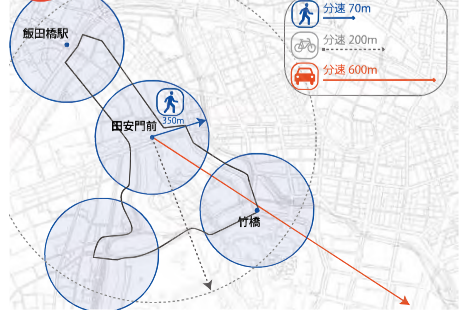
宣誓 2 生態系を街に広げ、生態系に触れる機会を増やし、人と生物が共存する「ズートピア」を創出します。



2.3 時間距離からの回遊性

対象敷地には、飯田橋駅、九段下駅という2つの交通拠点に恵まれており、他地域からのアクセスは非常に恵まれています。また武道館や千鳥ヶ淵、国立近代美術館など全国的な知名度を持つ、文化芸術施設や緑豊かなオープンスペースが、漆が作る都市空間に沿って点在し、観光客や散策者が訪れる地域資源に恵まれています。しかし、それぞれのスポットが離れた点に在り、そして漆を特徴とした空間構造が迂回する動線を生み出していることが、車で近すぎる、徒歩で歩き回るとは違うという状況を生み出しています。

宣誓 3 歩行を中心にモビリティで補う移動空間をつくります。



4. ナレジコモンズの事業の取り組み

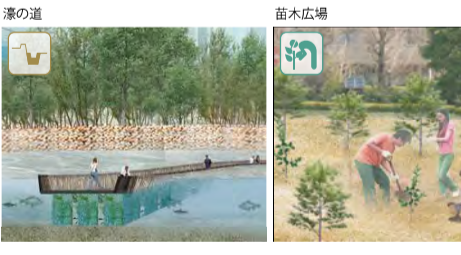
4.1 ナレコモスペース事業

新たな教育プログラム実施のためのナレコモスペースを作ります。
(1)早稲田通り沿いに集まる学校たち、今までバラバラの敷地の建物として、塀を壊して取り壊し、学校の敷地を周りに道と繋げます。密集した学校の土地は道を狭く、空間的な広がりを獲得し、広場のような場所になります。そこは地域の学生が利用する食堂や自習室、図書室、ナレコモ広場といった、学生生活をさらに豊かにするナレコモスペースとして土地利用を行います。また、その地域の住民や来訪者も利用することができ、交流の場所としても活用されます。
(2)北の丸公園内でのナレコモスペースとして、東京国立近代美術館、科学技術館、東京国立近代美術館工芸館主催の学生向けワークショップをするためのあおぞらラボをつくります。あおぞらラボは、北の丸公園の緑豊かな環境の中で、子ども達の能動的学習の場所として利用されるだけでなく、ワークショップが開催されない時は、広場としてピクニックや日光浴を楽しむ場所となります。



4.2 ズートピア事業

北の丸公園に存在する豊かな生態系を未来に繋いでいくために、樹木医などのインタープリターを招き、生態系の保護活動を推進し、ズートピアの維持を行います。またズートピアの観光利用として、豊かな生態系の中を歩くことができ、自然を間近で観察することができる漆の道を整備、整備します。来訪者は漆の道を通り、漆の下から北の丸公園の豊かな生態系と東京の街並みと眺めることができます。北の丸公園の中には、まちに移植するための苗木を育てるための、苗木広場をつくります。苗木広場で十分に育った苗木はナレコモ広場に移植され、まちに生態系のネットワークを構成して、さらに憩いの場を創出します。生態系のネットワークは都市のクールスポットを広げ、冷気が込み出し、周辺の温度上昇を緩和させる効果が期待できます。



4.3 モビリティ事業

(1)エレキレンタルサイクル エリアの結節点にサイクルステーションを設置し、サイクルの貸し出しを行います。また、各サイクルポートの間には駐輪スペースを設け、充電できるようになっています。
(2)ナレジコプロムナード 飯田橋駅から北の丸公園へと続く通りを歩行者と自転車のための専用街路とします。路上はナレコモスペースと一体になり、滞在できる街路空間にし、緊急時は緊急車両の通り道となります。



5. マスタープラン

ナレコモスペース、ズートピア、モビリティ事業の3つの取り組みがまちに広がることで、学びと自然が交差する多様な場所が生まれ、モビリティで飯田橋の領域を網羅します。



■インタープリターと参加者
インタープリターたちは立場によって、
①先生の見習いの2つのクラスに分かれ、参加者とは以下の関係です。
先生 ナレジコモンズに所属する人や学生にインタープリテーション教育を行うものや組織を運営する人が該当します。彼らは組織の運営、まちづくりのプレインとして活躍します。
見習い 大学生や地域の住人など、ナレジコモンズの活動に参加、手助けを行う人たちが該当します。彼らは組織の運営、まちづくりのエンジンとして活躍します。
参加者 地域の住民や学生、他地域からの来訪者などが該当します。彼らは、ナレジコモンズの活動を広げていく役割を担います。活動への貢献度を高めることで、上位のクラスに所属することができます。上位のクラスに所属することで、ナレジコモンズが管理する施設やモビリティ利用料の緩和や地域のお店の割引券などの特典を得ることができます。